

会報 遠藤章博士顕彰会

発行責任者 遠藤章博士顕彰会 会長 佐々田亨三 ☎0184-72-2045

コロナ禍の今、博士の偉業に 熱い注目を!

遠藤章博士顕彰会会長 佐々田亨三

「遠藤章博士顕彰碑」除幕式を5月1日快晴のもと、挙行することが出来ました。秋田県知事（代理）・県教育次長石川政昭様、由利本荘市長湊貴信様、元文部科学省事務次官で東京国立博物館長の銭谷眞美様（代読）・前秋田県教育長米田進様）からの祝辞に続き、博士からは感謝のメッセージ（代読・博士の甥遠藤正悦様）を頂きました。除幕式では東由利小、中学生の代表も加わって幕を取り去り、皆様にお披露目することが出来ました。顕彰碑の中央には博士の肖像、ヘッド部分には世界初・スタチン第1号・コンパクトンの化学式、モニメントには博士の手形と、博士自身の筆による「努力」が刻まれております。ここに顕彰碑建立

に当たりご賛同を頂きました皆様を始め、秋田県、由利本荘市、関係機関、そして企画・交渉等されました遠藤正悦様、博士ご家族の皆様から感謝と御礼を申し上げます。誠にコロナ禍にもかかわらず事業を推進することが出来たのは総会における理事会への信任のおかげであります。理事会のもとで、事務局拡大会議、特別委員会、事務局会議等で話し合いを重ね今日を迎えることが出来ました。

現在、コロナ禍2年目、私達成年の大方はコロナワクチンを2回接種しましたが、新変異株・オミクロンの脅威に再びさらされております。飲み薬承認申請の話題もありますが、まだまだ世界中を震撼させるもの

と思われまふ。遠藤章博士は1973年現在スタチンと総称されるコレステロール低下剤の元祖コンパクトンを青カビから発見し、新薬開発・安全性の臨床に尽力、スタチン開発のパイオニアとして世界的業績を挙げられました。ブラウン、ゴールドスタイン両博士がノーベル賞を受賞する際に「ここに遠藤はどうしてないのか」、また、ノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥博士は「遠藤章博士こそ」と言われました。遠藤章博士の医学・薬学における創業の大偉業・世界的功績であること、コロナ禍の現実の中で再確認したいものです。そして、遠藤章博士のスタチンの開発と安全性臨床への揺るぎない、粘り強い努力がどれ程素晴らしいものであったかを再認識したいと思ひます。

今年も、博士はノーベル賞の有力候補として新聞紙上に掲載されました。10月4日、6日にそれぞれノーベル生理学・医学賞、化学賞の有効候補として新聞紙上に掲載されました。10月4日、6日にそれぞれノーベル生理学・医学賞、化学賞の発表でした。多くのマスコミの関係者が、実家の遠藤正悦氏宅と、市長を始め、顕彰会員の待機するカダーレに集まり博士のノーベル賞受賞に関わる取材をしてくださいました。「来年があるぞ」と業績の大きさを確認したところで、顕彰会と致しましては、博士の世界的な偉業を永く讃えと共に、子供達の学びの支えになる活動を続けるために、第一に、青カビからメバスタチンMLI236B「コンパクトン」を発見するまでの研究・臨床等を中心に「遠藤博士を学び・語る会」の開催、第二に現地顕彰碑の解説・下郷分校の話等を中心に、博士の通学の主な箇所や小松耕輔、高橋宏幸の偉人にも触れる。第三に、博士と研究をともした方の講演会等を計画できればと考えております。

今後、コロナ禍で厳しい状況ではありますが、よろしくお願ひ致します。

賞の発表でした。多くのマスコミの関係者が、実家の遠藤正悦氏宅と、市長を始め、顕彰会員の待機するカダーレに集まり博士のノーベル賞受賞に関わる取材をしてくださいました。「来年があるぞ」と業績の大きさを確認したところで、顕彰会と致しましては、博士の世界的な偉業を永く讃えと共に、子供達の学びの支えになる活動を続けるために、第一に、青カビからメバスタチンMLI236B「コンパクトン」を発見するまでの研究・臨床等を中心に「遠藤博士を学び・語る会」の開催、第二に現地顕彰碑の解説・下郷分校の話等を中心に、博士の通学の主な箇所や小松耕輔、高橋宏幸の偉人にも触れる。第三に、博士と研究をともした方の講演会等を計画できればと考えております。

今後、コロナ禍で厳しい状況ではありますが、よろしくお願ひ致します。



顕彰碑除幕式

70人が出席

顕彰碑除幕式は5月1日、秋田県知事代理、由利本荘市長、秋田県議会議長など来賓と関係者合わせ、コロナ禍を配慮し人数制限の70人が出席して行われました。

午前10時30分に開式、主催者を代表し佐々田亨三顕彰会長があいさつ、秋田県知事代理と湊貴信市長が祝辞を述べました。除幕は、コロナ感染症の影響で欠席をやむなくした遠藤章博士の代理で甥の遠藤正悦さん（小倉）と、東由利小・中学校の児童・生徒代表など10人で行われました。このあと遠藤章博士から届いたメッセージを遠藤正悦さんが代読、引き続き佐々田会長から顕彰碑完成を記念した記念品の目録が遠藤章博士に贈られました。

式典は午前11時に終了、出席者は会場そばの東由利公民館に設けられた「遠藤章博士顕彰碑竣工記念特別企画展」に足を運び、遠藤章博士に贈られた発送前の特大の御殿まりの実物や数々の賞状、レプリカ、写真などを見学しました。



70人が出席して行われた顕彰碑除幕式

式典は午前11時に終了、出席者は会場そばの東由利公民館に設けられた「遠藤章博士顕彰碑竣工記念特別企画展」に足を運び、遠藤章博士に贈られた発送前の特大の御殿まりの実物や数々の賞状、レプリカ、写真などを見学しました。

式典は午前11時に終了、出席者は会場そばの東由利公民館に設けられた「遠藤章博士顕彰碑竣工記念特別企画展」に足を運び、遠藤章博士に贈られた発送前の特大の御殿まりの実物や数々の賞状、レプリカ、写真などを見学しました。

式典は午前11時に終了、出席者は会場そばの東由利公民館に設けられた「遠藤章博士顕彰碑竣工記念特別企画展」に足を運び、遠藤章博士に贈られた発送前の特大の御殿まりの実物や数々の賞状、レプリカ、写真などを見学しました。

先生の手形に感動

偉大なる遠藤章先生の顕彰碑除幕式に参加することができ、とても嬉しく思います。自分の目標に向かって努力し続ける遠藤先生の姿勢は、私たちが学ぶべき姿であり、後世に伝えていかなければならない東中生の鑑でもあります。そんな遠藤先生の顕彰碑除幕式では、出席された方々から先生に対する敬愛の念が述べられました。また遠藤先生ご本人からは、新型コロナウイルスの影響で手紙でのお言葉葉だったものの、東由利地域への熱い思いが感じられました。私個人としては、生徒代表として顕彰碑の除幕に立ち会うことができたことも忘れられません。厳かな雰囲気の中幕が取り去られ、顕彰碑が現れました。碑には先生の手形が付けられていました。その手形を見て、この手が先生の夢を実現したのだと思うと、身が震えるほどの感動を覚えました。高橋まなかさん（東由利中3年）

あきらめず努力!

私は顕彰碑除幕式に参加して、遠藤章博士のことがよく知り、学校では、授業の時に東由利の偉人について調べていたので、遠藤章博士についてある程度は知っていましたが、学生時代の話は、調べてもあまりわかりませんでした。遠藤章博士から直接お話を聞きたかったのですが、コロナウイルスの影響で遠藤章博士が来られなくなり、とても残念でした。しかし、遠藤章博士のご親族の方からとてもおもしろい話を聞くことができました。お話の中で私が印象に残っているのは、「農家には勉強は必要ない」と親に反対されたり、いやなことをいう村の人をさけて、わざわざ通る道を変えたりしてまでも、「へたれずに勉強を続けたい」という思いにとっても驚かされました。高校時代の先生のおかげで今の自分がいると話されていたので、人との出会いやつながりも大事だと思いました。私はまだ、はっきりとした夢や目標はありませんが、今やらなければならぬ勉強や委員会活動など、あきらめずに努力していきたいと思ひます。齊藤柑奈さん（東由利小6年）

10月9日の秋田魁新報朝刊(地域版・県央)に掲載されました。(著作権許諾許可済)

功績広める動き活発

スタチン発見 遠藤章さんの古里

東由利

2011年のノーベル生理学賞と化学賞、医学賞を受賞した由利本荘市出身の応用微生物学者、遠藤章さん(84)は遠藤が生まれ育った古里、東由利で顕彰碑の除幕式が行われ、功績を広める動きが活発だ。

顕彰碑は遠藤さんが学んだ同市東由利町の東由利中(佐藤中学校)の敷地内に建てられ、除幕式は5月1日(日)に開催された。遠藤さんの功績を伝えるべく、顕彰碑の除幕式は、遠藤さんの古里である東由利町で、5月1日(日)に開催された。遠藤さんの功績を伝えるべく、顕彰碑の除幕式は、遠藤さんの古里である東由利町で、5月1日(日)に開催された。

顕彰碑、展示、講話も

顕彰碑の除幕式は、遠藤さんの功績を伝えるべく、顕彰碑の除幕式は、遠藤さんの古里である東由利町で、5月1日(日)に開催された。

顕彰会会務報告

(令和3年1月～11月末現在)

- 1月20日 事務局拡大会議
- 2月13日 理事会
- 2月20日 事務局拡大会議
- 3月17日 事務局拡大会議
- 3月27日 事務局拡大会議
- 4月10日 事務局拡大会議
- 4月30日 事務局拡大会議
- 5月1日 顕彰碑除幕式・顕彰碑リーフレットの発行
- 5月1日～9日 遠藤章博士顕彰碑竣工記念特別企画展を東由利公民館で開催
- 6月25日 事務局拡大会議
- 7月17日 理事会
- 7月31日 事務局拡大会議・3年度総会資料の発送
- 9月25日 事務局拡大会議
- 10月4日・6日 遠藤章博士の業績を讃えノーベル賞発表に臨む会(市文化交流館カダーレ)
- 11月14日 顕彰碑の雪囲い
- 11月17日 事務局拡大会議

◆会費・協力金・寄付金等 (令和3年11月末日現在)

- ・会費 352,000円
 - ・協力金 19,000円
 - ・寄付金 19,000円
- 今年度会費をお忘れの方は、令和4年1月7日までにお納め下さるようお願いいたします。新会員も募集しております。お近くで顕彰会活動に賛同していただける方がいらっしたら、お誘い下さい。

【問い合わせ先】

0184-69-2927(高橋)
0184-69-3014(長谷山)



大雪にも備え 顕彰碑を雪囲い

遠藤章博士顕彰会の顕彰碑管理部会(長谷山博昭部長・部員4人)は、冬將軍を間近に迎えた11月14日、大雪にも備えた顕彰碑の雪囲いを行いました。

当日作業に関わったのは藤正悦部員で、黄金色の银杏の木の下でブルーシートでの雪囲い作業に汗を流しました。これに併せ、国道から顕彰碑まで4枚の誘導看板の撤去を、東由利教育学習課職員が行いました。



ホームページ1月公開!

遠藤章博士顕彰会のホームページを制作中です。予算をかけないよう自前で作し、年内の公開を目指していましたが、編集が間に合わず1月に延期しました。コンセプトとして東由利をイメージした緑を中心に、遠藤章博士の研究に対する熱意をイメージした赤色をワンポイントとし、スタイリッシュでシンプルながらも温かみのあるデザインを目指しています。

基本的なコンテンツは、**●遠藤章博士の歩み**▼遠藤章博士がどういった過程でスタチンの発見・創薬し、現在に至ったのかを、年譜と博士のお人柄も垣間見れるような形で紹介します。**●関連施設**▼実際に足を運ぶ遠藤章博士の偉業に触れる機会を増やすため、顕彰碑や顕彰室を画像を中心に紹介します。このほか、**▼顕彰会設立に至った経緯**や会報の掲載、活動などをブログ形式で紹介できるようにします。

除幕式を催しの動画をYouTubeに配信します。

夢持ち努力する生徒に育って

東由利中学校では、東由利を代表する偉人である遠藤章博士の功績をたたえ、その意志を引き継ぐと、7月から顕彰碑の清掃活動を始めました。全校を3つのグループに分け、10月まで2週間に1回、輪番制で行いました。学校では、この活動を通して、遠藤博士のように「夢を持ち、その夢に向かってひたすら努力する」生徒に育ってほしいと願っています。(東由利中教頭・猪股)



TOPICS

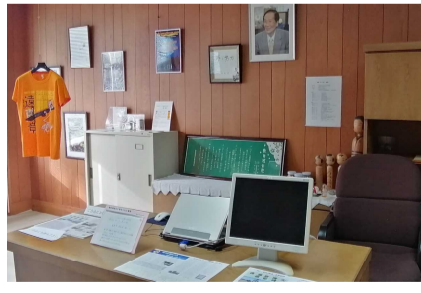
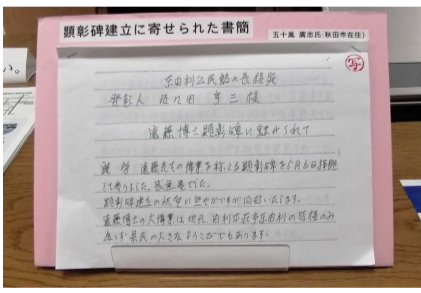
「ふれっそ」を会場に「遠藤章博士展」開催

9月22日～10月11日、東由利ショッピングプラザ「ふれっそ」の催事コーナーで「遠藤章博士展」を開催しました。毎年この時期、遠藤章博士のノーベル賞受賞に期待を寄せながら、このコーナーを開催していますが、今年は心筋梗塞・脳卒中の予防薬としての「スタチン」への関心の高まりもあつてか、観覧者の数が例年より多く感じました。(「ふれっそ」事務局長・木島)



八塩生涯学習センターの一室(旧八塩小学校校長室)に「遠藤章博士顕彰室」を設置しました。これまで同センター廊下の一角に展示していた展示品を移設し、新たに説明パネルやレプリカなどを追加しました。5月1日に開催した除幕式の写真を入り口の廊下に掲示したほか、机に設置したパソコンで除幕式DVDを鑑賞することもできます。同センターは毎週月・火が休館日です。☎〇一八四・六九・二〇一八

遠藤章博士室



顕彰碑建立への書簡

パソコンには除幕式動画も

編集後記

手にした昨年12月25日の日記「1月25日、新型コロナウイルス」を振り返ると、今年1月25日は、新型コロナウイルスが日本に広がった日だ。この日は、遠藤博士のノーベル賞受賞の日でもあった。遠藤博士の功績をたたえ、その意志を引き継ぐと、7月から顕彰碑の清掃活動を始めました。全校を3つのグループに分け、10月まで2週間に1回、輪番制で行いました。学校では、この活動を通して、遠藤博士のように「夢を持ち、その夢に向かってひたすら努力する」生徒に育ってほしいと願っています。(東由利中教頭・猪股)

委員長 小松幸丸
副委員長 小松幸丸
委員 小松幸丸